



不登校の児童生徒の保護者のみなさんにお便りします

やまびこ



兵庫県立但馬やまびこの郷
<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>
 E-Mail Tajimayamabiko@pref.hyogo.lg.jp

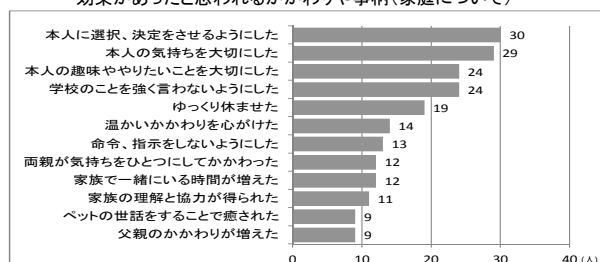
何が子どもたちを変えたのか

体験や周囲のかかわりが、不登校や不登校傾向の児童生徒の生活にどのように影響を与えているか、当所利用後の子どもたちの変化について調査しました。その中で、家庭でのかかわりに焦点を当てて、何が子どもたちを変えたのかを分析してみました。

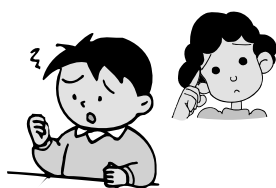
● 本人に選択、決定をさせるようにした

本人の気持ちを確認、尊重することが何よりも大切です。「私は□□と思うけど、あなたはどうか考えているの?」「○○と△△では、どっちがいいと思う?」など、押しつけではなく自己選択、自己決定させることで、子どもは自分を肯定されていると感じ、自信を持てるようになっていきます。

効果があったと思われるかかわりや事柄(家庭について)



● 学校のことを強く言わないようにした



子どものことを思って言ったことでも、学校に行けないことを責めたり、本人の気持ちにそぐわないことを命令や指示口調で言うことは、逆効果になってしまふことが多いようです。まずは、家庭を安全な場所、安心できる場所にしましょう。楽しい話題を提供するように心がけると、子どもも心が和みます。

● 家族の気持ちがつながった

「両親が気持ちを一つに」「家族の理解と協力」など、家族の気持ちがつながったときに、子どもにも良い影響が現れてくる場合が多いです。ともすれば母親が多くを抱え込んで辛い状況に陥りがちですが、「父親」の理解と協力は事態を好転させる力があります。まずは、本人をとりまく人たちが、じっくり話し合うことから始めてみましょう。



子どもの状態、要因、タイミングなどによって対処が変わります。当所では、ご相談も受け付けていますので、気軽にご連絡ください。 ※但馬やまびこの郷 TEL(079)676 - 4724



スーさんのちょっとセミナー

「家庭での子どもへの働きかけ」連載その10

みんなで地域に出かけよう

兵庫県立但馬やまびこの郷所長 杉村省吾

「やまびこに行けば、なぜ再登校が比較的短期に可能になるか」という秘訣の第3弾として、「地域と交流しよう」のプログラムについて、お話ししたいと思います。

やまびこの郷における2日目、午後からのプログラムは、「地域と交流しよう」です。但馬やまびこの郷から一歩踏み出し、サイクリングや史跡巡りをしたり、地域の方とのふれあいや職場体験をさせていただいたりして、活動範囲を広げます。プログラムに設定しているねらいは3つあります。

1 生理的リズムを自然のリズムに同化する

不登校になると他の子どもとの接触を避けるため、家にひきこもりになりがちです。さらに症状が悪化すると、昼夜逆転してしまいます。これが人間の体の生理的リズムを狂わせてしまうのです。そもそも人間は自然の中で進化を遂げ、特に、日本人は、四季折々の中で文化を発展させてきました。原風景に出会うと心が落ち着くという経験がみなさんにもあるでしょうが、それは、私たちの体は自然と時間を共有するようになっているからです。崩れた生理的リズムを自然のリズムに同化させることで、活性化を促進させることができます。



〈茶すり山古墳の上から臨む〉



〈自然の中で遊ぶ〉

当所は、建物から一歩飛び出せば、四方を山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれています。

与布土川は、人の手があまり入っていない川で、生き物を観察するのに適しています。子どもたちは、地域の方から生物の説明を受けてから、岸边や石の下の生き物を慎重に探します。初めは、緊張しておそるおそる足を入れていきますが、少し時間が経つと生き物を見つけることに夢中になっていきます。その内、服が濡れるのも気にならなくなり、生き物観察もそこそこで水遊びを楽しみます。全身で自然を感じているようです。

このように、自然の中で活動することで心地よい疲労を感じ、食も進み、良質の睡眠を得ることができ、崩れたリズムも徐々に元のリズムに戻っていきます。

2 人と交流して心が癒される

不登校状態になると、人とのかかわりが減り内向的になる場合が多いです。中には、人間関係でトラブルを起こした経験がある子もいます。地域の人の温かい人柄に触れることで心が癒やされ、少しずつわだかまりをなくしていきます。

ウォークラリーやサイクリングのとき、こちらからあいさつをすると地域の方から、「こんにちは」と返事をいただいたり、手を振ってくださったり気さくに応じてくださいます。当所ができて以来、地元の方々は、子どもたちを温かく迎えてくださっています。子どもたちは、地域社会の中で生かされている自分を感じていることなのでしょう。ご家庭でも、町内会の諸行事に参加したり、PTAの会合にも積極的に参加したりして、ママ友、パパ友をたくさん作られることをお勧めします。



〈伝統文化を学ぶ〉

昨年末に地元の藤本さんに正月の注連飾り作りを指導していただきました。子どもたちは、縄を縛うのに苦労していましたが、丁寧に優しく指導していただき、最後まで根気強く一生懸命取り組んでいました。子どもたちは藤本さんの温かい思いを受け止めたのだと思います。

このような交流を持つことで、人とふれあう楽しさを知り、人とかかわり合うことができるようになります。

3 自分の進路について考える機会を持つ

保護者の皆さんが最も気にされていることの一つとして、不登校生の進路があります。不登校になった子は、今のことは考えられてもなかなか先のことまでは考えることができません。当所では、地域の協力をいただき、「ミニ・トライやる」として職場体験を行っています。

やまびこの郷の近くには、照福こども園と小規模多機能施設「ひばり」があり、入所生たちは、園児や人生の大先輩である高齢者の方々と交流を図ります。こども園では、入所生が年少



〈お年寄りから遊びを学ぶ〉

児のおしめを替えてやったり、昼寝後のパジャマの着替えをさせたりします。この楽しい体験から、「将来、保育士になりたい」と言うようになる生徒もいます。

子どもには、体験させることが一番効果的です。活動に参加したほとんどの子が「子どもたちと遊んでおもしろかったです」「大変だったけど、楽しかった」など、興味を持ち、やりがいを感じたりしたようです。



〈園児と遊ぶ〉

このような活動で、自然の力を借り生理的リズムを整えていきます。また、地域の方から人とかかわる楽しさや将来への希望をいただき、子どもの視点を内から外へ、過去から将来へ向けられるように仕向けているのです。

皆さんの家庭でもできることがあります。朝、太陽の光を浴びて目覚め、家の外に一歩出てみる。季節の旬なものを食卓に出す。散歩をしながら四季の移り変わりを感じ、それを話題にする。近所やお店の方と世間話をする。お出かけしたとき、街の様子の中で子どもが興味を持つようなことを話題にしてみる。その時に、決して反応を期待するようなことをせず、自発的な言葉を大切にしてみてください。そうすると新たな子どもの一面が見えてくるかもしれません。それが、前に一歩進むきっかけになることなのでしょう。

不登校生の進路を考える



中学生になると自分の進路について不安を感じています。不安の要因として、授業に参加できなかったことによる学力不足や成績不振、不登校でも進学が可能な学校や校種についての情報不足などが挙げられます。保護者や教職員が子どもの気持ちに寄り添いながら、進路のアドバイスをすれば、子どもは希望を持って将来のことを考えられるようになります。

私立学校、 フリースクール

不登校に対して配慮してくれる学校や全寮制でサポートしてくれるところがあります。中等部がある学校もあります。

体験活動を重視した施設

- ・ 県立神出学園
- ・ 県立山の学校

豊かな自然の中で、ふれあいや体験を通じて、自分の生き方を発見できるように支援します。

定時制高校

昼間に働いて夜間に学びたい人や自分のペースで学びたい人に適しています。卒業までに必要単位を取得して修了します。

午前、午後、夜間などの複数のコースがある多部制単位制高校もあります。他のコースで余分に単位を取得することで3年で修了することもできます。

通信制高校

自宅にいながら単位を取得することができます。スクーリング等で時々登校します。

※県立神出学園では、通信制高校や私立学校と連携し、個に応じた方法で高校卒業資格を取得できるよう支援しています。

やまびこ 親の会

昨年8月25日(土)、26日(日)に「やまびこ親の会」を開催しました。県内各地から参加していただき、研修や交流を深めることができました。



〈講演〉

しらさぎ家庭教育研修所所長の畑中克予氏から『子どもに寄り添い、子どもと向き合う』と題して、「家庭は人格を形成する基盤である」として家庭の役割、親の役割についてお話していただきました。



〈専門家を囲んで〉

兵庫県スクールカウンセラーの上原秀子氏から、不登校の子どもへの理解とその状況に応じた支援について、自身の経験談や具体的な事例をもとに、分かりやすく説明していただきました。



〈花束メッセージ〉



〈交流会〉

本音を表現し合い、それを互いに認め合うグループエンカウンター体験や、子どもの様子や子どもへの関わり方についての悩みなどの意見交換をしました。参加された方から、「同じような境遇の方と話ができて良かった」「泣いて、笑って、とことん話してスッキリしました」などの感想をいただきました。

